ー 平成20年3月期（第27期） ー

中間決算説明会

2007年 12月 3日

Globality Engineering Maker

株式会社 エスイー

1

平成20年3月期 中間財務諸表

2

平成20年3月期 中間損益計算書（連結）

単位：百万円

科目	平19.3期 中間	平20.3期 中間	増減額
Ⅰ 売上高	4,315	4,562	247
Ⅱ 売上原価	3,116	3,305	189
売上総利益	1,199	1,257	58
（売上総利益率）	（27.8%）	（27.6%）	（△0.2）
Ⅲ 販売運賃・販売手数料	161	174	13
Ⅳ その他販売・管理原価	1,092	1,151	58
営業利益	△54	△68	△14
Ⅴ 営業外収益	42	51	8
Ⅵ 営業外費用	21	21	△0
経常利益	△33	△38	△5
Ⅶ 特別利益	1	―	△1
Ⅷ 特別損失	0	14	14
税金等調整前中間純利益	△31	△53	△21
法人税・住民税・事業税他	5	△20	△25
中間純利益	△37	△33	4

3

分野別売上高・粗利益（連結中間）

単位：百万円

区分		平成19.3期 中間		平成20.3期 中間		
		百万円	構成比	百万円	構成比	増減額
環境防災事業	売上	3,385	78.5%	3,382	74.1%	△2
	粗利益	1,045		1,005		△40
	利益率	（30.9%）		（29.7%）		（△1.2）
橋梁構造事業	売上	803	18.6%	1,099	24.1%	296
	粗利益	141		215		74
	利益率	（17.6%）		（19.6%）		（2.0）
バイオマスその他	売上	126	2.9%	81	1.8%	△45
	粗利益	12		37		24
	利益率	（9.7%）		（45.5%）		（35.8）
合計	売上	4,315	100%	4,562	100%	247
	粗利益	1,199		1,257		58
	利益率	（27.8%）		（27.6%）		（△0.2）

4

平成20年3月期 中間貸借対照表（1）（連結）

単位：百万円

科目	平19.3期 中間	平20.3期 中間	増減額
資産の部			
現預金	1,741	1,686	△54
営業債権	4,368	4,610	242
棚卸資産	1,032	1,072	40
その他	275	362	87
流動資産 計	7,417	7,733	315
有形固定資産	3,037	3,269	231
無形固定資産	43	54	10
投資その他の資産	1,064	1,015	△49
固定資産 計	4,146	4,338	191
資産合計	11,564	12,071	507

5

平成20年3月期 中間貸借対照表（2）（連結）

単位：百万円

科目	平19.3期 中間	平20.3期 中間	増減額
負債の部			
営業債務	3,106	3,404	298
一年内返済長期借入金	551	590	39
一年内償還社債	184	184	―
その他	257	237	△19
流動負債 計	4,099	4,417	318
社債	294	110	△184
長期借入金	1,046	1,270	223
退職給付引当金	347	348	1
その他	352	361	9
固定負債 計	2,039	2,090	50
負債合計	6,138	6,508	369
純資産の部			
資本金その他	5,572	5,692	119
自己株式	△245	△245	△0
その他有価証券評価差額金	53	41	△11
為替換算調整勘定	44	74	30
純資産合計	5,425	5,563	138
負債･純資産合計	11,564	12,071	507

6

キャッシュフロー計算書（1）（連結中間）

単位：百万円

科目	平19.3期 中間	平20.3期 中間	増減額
Ⅰ 営業活動によるキャッシュフロー			
税金等調整前中間純損失	△31	△53	△21
減価償却費	83	86	2
売上債権の増減額（増加：△）	806	1,428	622
棚卸資産の増減額（増加：△）	△70	△113	△43
仕入債務の増減額（減少：△）	△432	△662	△230
法人税等の支払額	△107	△257	△150
その他	△114	△78	36
計	134	349	215
Ⅱ 投資活動によるキャッシュフロー			
有形固定資産の取得による支出	△35	△287	△252
無形固定資産の取得による支出	△3	△14	△11
投資有価証券の取得による支出	△18	△24	△5
投資有価証券の満期償還による収入	100	－	△100
その他	0	△0	△0
計	43	△327	△370

7

キャッシュフロー計算書（2）（連結中間）

単位：百万円

科目	平19.3期 中間	平20.3期 中間	増減額
Ⅲ 財務活動によるキャッシュフロー			
長期借入による収入	600	850	250
長期借入の返済による支出	△252	△298	△45
社債償還による支出	△92	△92	－
配当金の支払額	△115	△153	△38
自己株式取得による支出	△14	△0	14
計	125	305	180
Ⅳ 現金及び現金同等物 増減額	302	327	25
Ⅴ 現金及び現金同等物 期首残高	1,354	1,273	△80
Ⅵ 現金及び現金同等物 中間期末残高	1,656	1,601	△54

8

平成20年3月期 通期予測

9

平成20年3月期 損益計算書（連結）

単位：百万円

科目	平成19.3期 実績	平成20.3期 予測	増減額
Ⅰ 売上高	10,380	11,270	889
Ⅱ 売上原価	7,387	7,972	584
売上総利益	2,992	3,298	305
（売上総利益率）	（28.8%）	（29.3%）	（0.5）
Ⅲ 販売運賃・販売手数料	379	397	17
Ⅳ その他販売・管理原価	2,124	2,345	220
営業利益	488	556	67
経常利益	555	620	64
当期純利益	269	369	100

10

SECグループの中期経営戦略

Globality Engineering Maker
SE CORPORATION

11

（SECグループの中期経営戦略）

I. 平成19年度上半期 事業報告

II. SECグループの中期経営戦略

12

Ⅰ．平成19年度上半期 事業報告

1. 山口工場の設備拡張
2. 環境・防災事業
   - 引張型アンカーの製造販売開始
   - アンカー市場
   - 落橋防止装置市場
3. 大型斜張橋プロジェクト
4. 海外市場への進出
5. アンジェロセックの活動報告
6. バイオマス事業の活動報告

平成19年度
中間報告

1. 山口工場の設備拡張

事業拡充のための積極的な設備投資

隣接敷地の取得

- 敷地面積を6割強拡張
  （6,920坪→11,120坪）
- 投資額：6億円
- 生産性：1.5倍

平成19年度
中間報告

1. 山口工場の設備拡張

効　果

- ◆ 生産能力、納期対応の向上
- ◆ 製造工程の内製化等によるコストダウン

ケーブル二次撚り加工設備

ケーブル二次撚り加工の内製化

- 多重より線の安定的供給
  → 柔軟な納期対応
- 内製化によるコストダウン
  （当社試算 約11百万円/年）

平成19年度
中間報告

1. 山口工場の設備拡張

効　果

- ◆ 多様化する製品ニーズへの対応

- 落橋防止装置 付属品の取り込み ・・・ ブラケット他、付属品の取り込みによる一括受注

その他、ニーズに合わせた製造対応が可能に

レーザー加工機

落橋防止装置 ブラケット

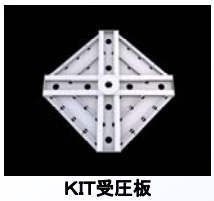
平成19年度
中間報告

2. 環境・防災事業

■ 引張型アンカーの製造販売開始
（スーパーフロテックアンカー）

→ 既存と含め、アンカーのシェア 60% に

スーパーフロテックアンカー



KIT受圧板

（単位：百万円）

	平成19年度 上期売上実績	平成19年度 通期売上予測
スーパーフロテック	106	331
KIT受圧板	452	1,125

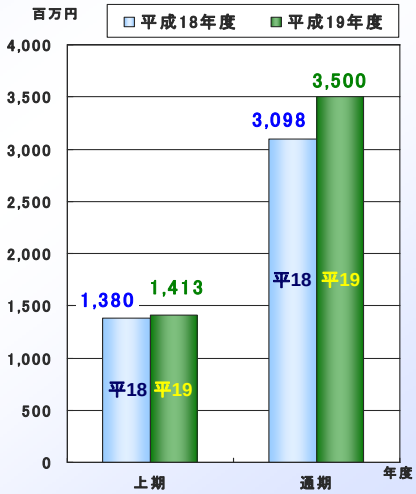
スーパーフロテックアンカーの販売がKIT受圧板の売上拡大に寄与

平成19年度
中間報告

2. 環境・防災事業

KIT受圧板を用いたアンカー法面施工現場

アンカー、KITの売上予測と前期比較



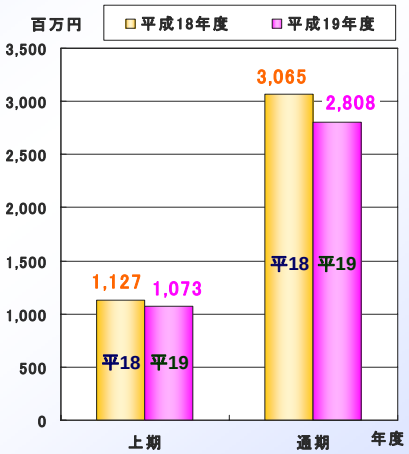
平成19年度
中間報告

2. 環境・防災事業

タイブリッジシステム

ユニバーサルシステム

落橋防止装置の売上予測と前期比較



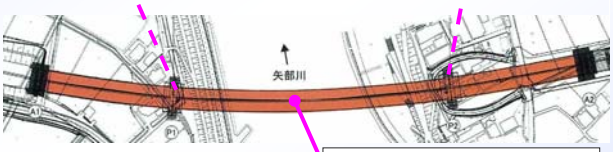
（下期）価格改定、付属品の内製化により、売上・利益の更なる上積みを目指す

SEC SE Corporation 19

平成19年度
中間報告

3. 大型斜張橋プロジェクト

- 矢部川橋（福岡県）架設工事



平面曲線 R=1,150m

（左上写真）
2007年7月時点での斜材架設状況

SEC SE Corporation 20

平成19年度
中間報告

3. 大型斜張橋プロジェクト

■ 鷹島肥前大橋（長崎県）架設工事

2007年11月より斜材架設開始

◆ 大型斜張橋案件の売上推移

（単位：百万円）

	平成18年度 上期	平成18年度 下期	平成19年度 上期	平成19年度 下期
売上高	13	279	359	708

平成19年度
中間報告

4. 海外市場への進出

Vietnam-Japan Engineering Consultants Company（VJEC）設立

（ベトナム ハノイ） Consultancy Company University（CCU）との合弁会社

（2007年11月23日） ハノイにて橋梁シンポジウム開催

平成19年度
中間報告

5. アンジェロセックの活動報告

アンジェロセックの主な国内受注案件

- 祇園之洲橋 予備設計業務（鹿児島県）
- 笹無田川橋他 予備設計業務（大分県）
- 筑後川橋 予備設計業務（福岡県）

祇園之洲橋 予備設計業務

笹無田川橋他 予備設計業務

平成19年度
中間報告

5. アンジェロセックの活動報告

筑後川橋 予備設計業務を受注

- 有明海沿岸道路 福岡県内最大規模となる長大橋の予備設計業務
- 架橋予定地の川幅：**約400m**
  → 矢部川橋のおよそ2倍

平成19年度
中間報告

6. バイオマス事業の活動報告

■ 食品残渣処理プラント 今年度現時点での受注案件

- 食品残渣飼料化プラント
  セブンイレブン向け弁当等製造工場（千葉県）で発生する食品残渣を飼料に再生
  ※ 2008年1月納品予定

- おから乾燥処理プラント
  おからを乾燥して廃棄容量を減量
  ※ 2008年3月納品予定

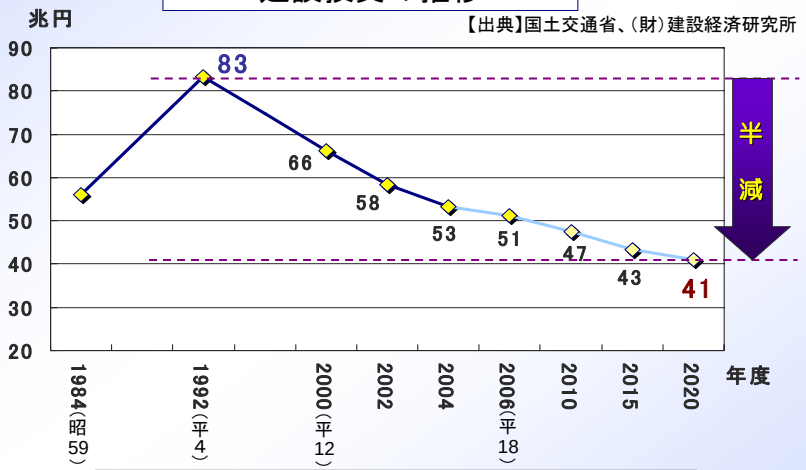
食品残渣飼料化プラント（コアマシン）

その他、今年度中に納品予定の案件あり（食品残渣乾燥減容プラント）

Ⅱ. SECグループの中期経営戦略

建設市場の見通し

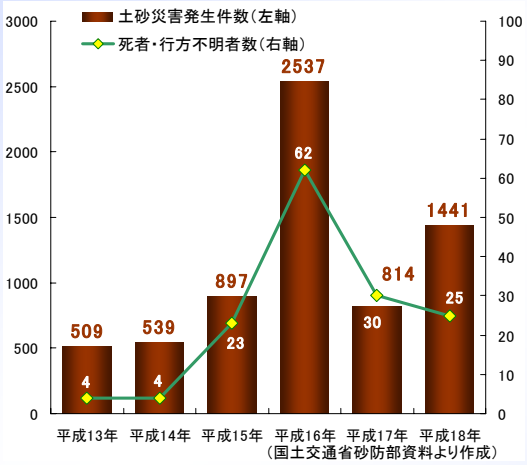
建設投資の推移



- 2000(平12)年度を基準とした実質値で、2006年度は見込み
- 2010年度以降はGDP1.0%成長と仮定して算出

土砂災害対策の現状

土砂災害の発生件数と被害者数



全国の地すべり危険箇所

国土交通省所轄:11,288箇所
↓
農林水産省、林野庁所轄含む
20,000箇所超

(参考)「砂防便覧」、「河川便覧」

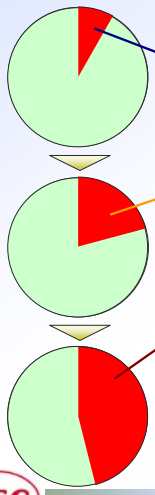
当社の事業領域である「災害対策」は不十分

補修・補強、更新に対する現状

今後は補修・補強・更新の必要性が増大

一般道路における建設後50年以上経過の橋梁の割合
（国土交通省資料より）

※ 橋長15m以上の橋梁が対象（全国に約14万橋）



【2006年度】6%（8,900橋）

【2016年度】20%（28,400橋）

【2026年度】47%（66,300橋）

対応の遅れは大惨事を招く恐れ

米ミネアポリスで発生した橋梁崩落事故
2007年8月1日（現地時間）

日本構造物診断技術協会　会長 森元 峯夫　1987年8月 設立

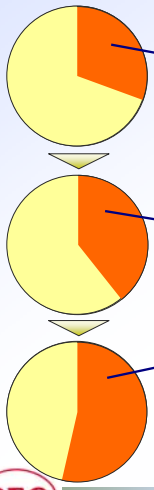
【目的】構造物の調査、診断、補修・補強技術の向上とその普及
加盟社数：67社

SE Corporation　29

補修・補強、更新に対する現状

今後は補修・補強・更新の必要性が増大

投資総額に対する維持管理・更新投資の比率推計
（国土交通省資料より）



【2010年度】32.6%（5.3兆円）

【2015年度】41.0%（6.1兆円）

【2020年度】53.5%（7.1兆円）

※ 投資総額対前年比△2%で推移した場合の推計

外ケーブルによる橋梁の補強

獅子が鼻大橋（新潟県）

小柳津高架橋（静岡県）

SE Corporation　30

中期事業計画の要諦

（平成18年度）売上　103億円 → **中期**（H20～H22）**売上 150億円**

（平成19年度）売上 112億円

Ⅰ. 地震他、災害対策
Ⅱ. 既存老朽橋梁他の補修・補強市場
Ⅲ. 公共事業の縮小
の中での成長戦略

1. 既存事業の拡充（新用途開発、補修・補強市場への取組み）
2. 大型斜張橋市場への積極展開（国内外）
3. 建設エンジニアリング能力の発揮
4. バイオマス事業の更なる強化
5. 海外市場の積極的開拓（韓国、ベトナム他）
6. 人材の充実（成長戦略の裏付）
7. M&Aによる事業領域の拡大

中期戦略

1. 既存事業の拡充

地震、台風等、災害への対応は不可避の課題

地すべり被害の現場

- アンカー、KITの中期売上計画

（単位：百万円）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
アンカー	2,200	2,200	2,200
スーパーフロテックアンカー	331	700	800
KIT	1,125	1,100	1,200
合 計	**3,656**	**4,000**	**4,200**

スーパーフロテックの販売によるシェア拡大、KITへの相乗効果による売上拡大

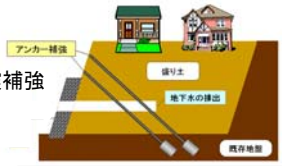
中期戦略

1. 既存事業の拡充

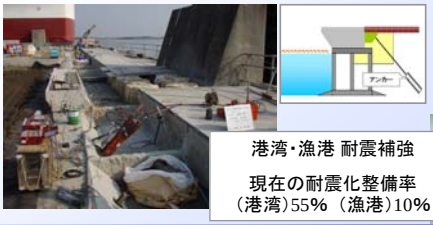
アンカーの法面から非法面への拡大（当社アンカー売上 非法面比率 5% → **20%**）

対策必要箇所：57,000箇所

宅地造成地耐震補強



既存造成地 13,000箇所
（優先的実施箇所：1,000箇所）



港湾・漁港 耐震補強

現在の耐震化整備率
（港湾）55%（漁港）10%

中期戦略

1. 既存事業の拡充

地震、台風等、災害への対応は不可避の課題

阪神淡路大震災時の高架橋崩落
画像提供：世界文化フォト

台風の影響により被害を受けた十文字橋（神奈川県）
※ 落橋防止装置により橋桁は流されずに済む

- 落橋防止装置の中期売上計画

（単位：百万円）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
落橋防止装置	2,800	2,700	2,700

プロジェクトの完了に伴い、市場シェアの争いに
→ ニーズに沿った提案・開発、取扱製品の広範化、付属品の取込みによる売上・利益増

中期戦略

1. 既存事業の拡充

耐震補強市場への対応

建築物（学校・病院他）の耐震補強

パラレル構法

市場規模

- 全国公立小・中学校　13万棟
- 耐震補強工事を要するもの
  → 25,000棟
- パラレル構法の対象となるもの
  → **8,000棟**
  （エスイー市場規模：400億円）

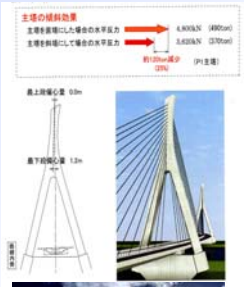
広陵高校（広島県）

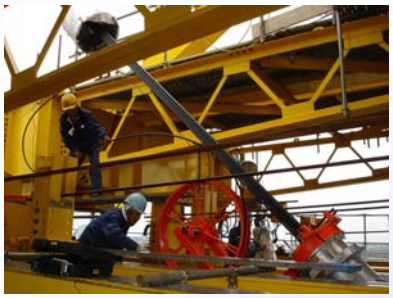
松下電工 瀬戸工場（愛知県）

中期戦略

2. 大型斜張橋市場への積極展開

■ 矢部川橋（福岡県）施工状況





アンジェロセックによる
客観的評価（OEM）
↓
主塔形状の提案他

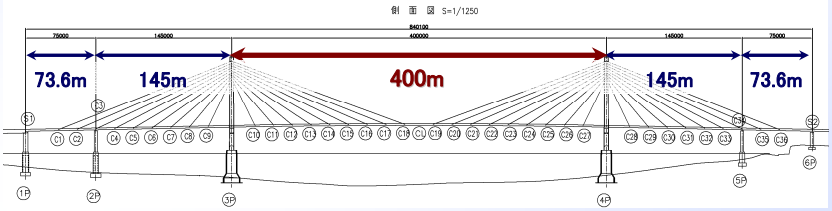
ソフトウェア管理による
斜材架設（AQSS）
↓
斜材架設の自動化

工費縮減、工期短縮に貢献

中期戦略

2. 大型斜張橋市場への積極展開

■ 鷹島肥前大橋（長崎県）架設工事



AQSSによる架設が11月より開始

中期戦略

2. 大型斜張橋市場への積極展開

■ 銚子大橋（千葉県）架設工事

2008年3月斜材架設工開始予定

- 今後の大型斜張橋予定物件（国内外）

  8件　計 2,000百万円

中期戦略

3. 建設エンジニアリング能力の発揮

新　設

補修・補強、更新

限られた予算の中で行わざるを得ない状況

- 早く　工期の短縮
- 安く　工事費及び維持費（ライフサイクルコスト）の縮減
- 安全に　耐久性の保証（品確法への対応）

優れた建設エンジニアリング能力がますます重要（提案型）

中期戦略

3. 建設エンジニアリング能力の発揮

（アンジェロセック 筑後川橋予備設計業務）

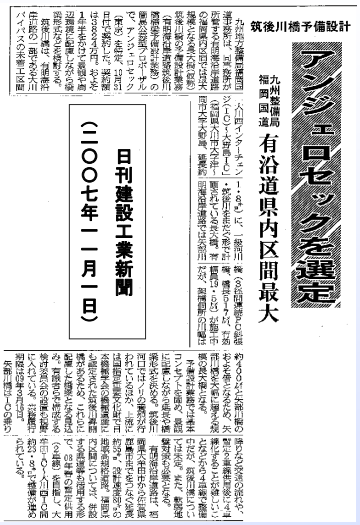
予備設計

基本コンセプトの決定

橋梁延長、橋梁形式 等 → 周辺の景観・環境に配慮して検討

経済合理性、構造合理性も満たしたコンセプト

グループ内で開発の製品・工法、独自技術の提案
→ グループ売上増の相乗効果に


筑後川橋予備設計

アンジェロセックを選定

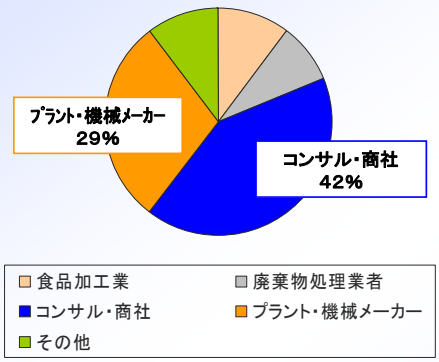
九州整備局 福岡国道 有沿道県内区間最大

日刊建設工業新聞（二〇〇七年一一月一日）

中期戦略

4. バイオマス事業の更なる強化

当社引合い件数 業種別割合



社名	処理対象	視察・実験等
A社	樹脂汚泥	プラント視察、乾燥実験
B社	おから	プラント視察
C社	食品残渣（ｽｰﾊﾟｰ）	プラント視察、乾燥実験
D社	汚 泥	乾燥実験
E社	焼酎粕	プラント視察、乾燥実験
F社	排菌床	プラント視察
G社	食品残渣	プラント視察、装置ﾚﾝﾀﾙ
H社	しょう油粕	乾燥実験
I社	有機残渣	プラント視察、乾燥実験
J社	廃もやし	プラント視察、乾燥実験
K社	バガス	プラント視察
L社	水産廃棄物	乾燥実験
M社	水溶性切削油	乾燥実験
N社	トルエン	処理実験
⋮	⋮	⋮

（右 表）
プラント視察または乾燥実験等を行った案件

SEC

中期戦略

4. バイオマス事業の更なる強化

バイオマステクノの20億化を目指して

- 食品残渣、工場有機汚泥のリサイクルプラントの設計・製造・建設
- 減圧乾燥機を核に他の形式を組み合わせたリサイクル飼料製造プラントの設計・製造・建設・運転・メンテナンス
- 有機残渣処理プラントによるリサイクル飼料の製造・販売

コアマシン

減圧乾燥機

蒸気ジェット式乾燥機

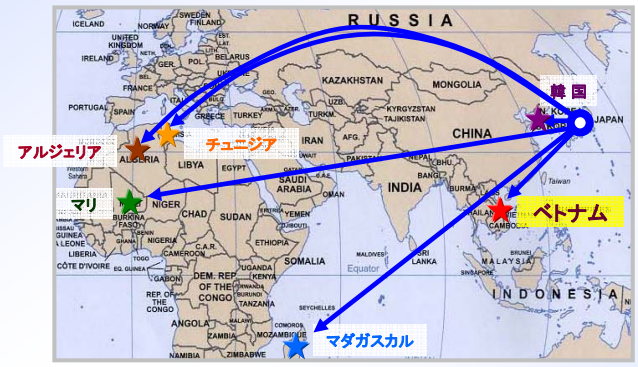
高真空乾燥機

SEC

中期戦略

5. 海外市場の積極的開拓

■ SECグループ 海外活動地域



ベトナム建設市場へのソフト戦略

アンジェロセックと現地企業（CCU）、アンジェロップ社共同のエンジニアリング会社
ベトナム政府直系との協力関係構築・共同組織化

中期戦略

5. 海外市場の積極的開拓

ベトナム国内の概要

■ GDP規模 ・・・ およそ日本の1/100
（約500億USD）

■ GDP成長率 ・・・ 年率約8%
（鉱工業、建設業が高い伸び率）

■ 社会インフラ・産業基盤の整備が課題
- 自動車・オートバイの車輌は増加
- 既存の鉄道、橋梁も老朽化が著しい

⇩

日本の製造業の急速な進出と韓国企業の進出

⇩

社会インフラ整備の必要性

高速道路の建設が急務

中期戦略

5. 海外市場の積極的開拓

ベトナム周辺地域（ASEAN、中国）

■ 南北縦断鉄道網構想が始動

- 中国 昆明～シンガポール間
- 総延長 約5,500km
- 総投資額 約2,300億円
- 2015年完成予定

東南アジア経済統合の加速化

南北を縦断する鉄道網構想
※ ━ は今後建設予定の区間

中期戦略

5. 海外市場の積極的開拓

■ 経済の高度成長
■ 早急なインフラ整備の必要性

大きな需要が期待できるが、競合も多数（日系・海外とも）

ベトナム市場の基本戦略

当社の技術優位性を政府諸機関（発注側）へアピール

Hanoi University of Civil Engineering との連携
→ VJECの設立、活動開始

シンポジウムの様子
（2007年11月23日 ハノイにて開催）

- フランスとの共同技術による低コスト・短納期・高品質の付加価値を戦略的にPR
- 他の日系企業との違いを明確化

中期戦略

6. 人材の充実（成長戦略の裏付）

- 競争に打ち勝つ為
- 新製品・新技術の開発の為
- 海外市場での積極的な活動の為

人材の充実は不可欠

国内外の卓越した人材の採用により、
海外大型プロジェクトへの取組みを強化

海外人材の登用

・フランス、中国、ベトナム等から幅広く受入
・海外の知識を技術開発に応用
・海外事業の積極展開のため、国際市場からの人材の採用

社外からの人材スカウト

・社内で蓄積された技術と社外で積み上げられた経験と知識の融合により、新しい技術を開発

SECグループの企業像と位置づけ

Stage 3
（～H25）

SECｸﾞﾙｰﾌﾟの企業像

売上200億円企業

- 建設産業と業際分野での世界的エンジニアリングメーカー

Stage 2
（～H22）

中期目標

売上150億円企業

- 既存製品 → 用途拡大（非法面、耐震補強分野）
- 大型斜張橋案件 → FUT－H現場架設工法で国内外の市場攻略
- エンジニアリング能力の発揮により、グループ内で相乗効果を醸成（川上～川下までの受注獲得）
- バイオマステクノの売上拡大（20億円化）
  → 取扱機械の広範化によるプラント提案力強化
- 海外戦略（ベトナム市場攻略、韓国他市場にも進出）
- M&A → 事業領域拡大

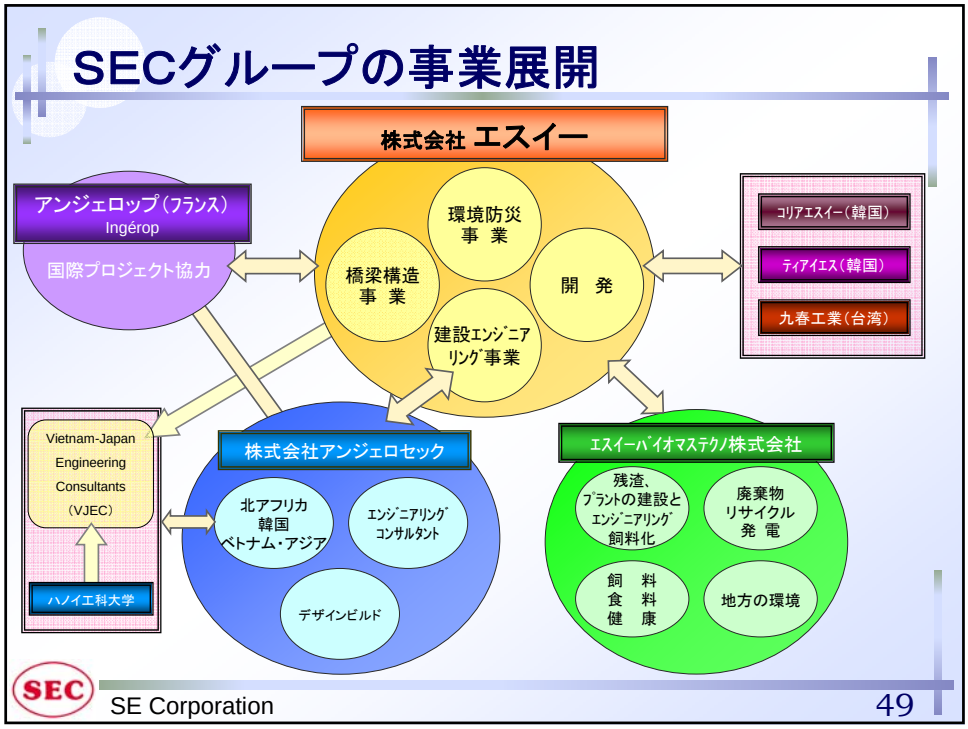
Stage 1

現在の姿

ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾒｰｶｰ

平成19.3月期売上103.8億円

- 環境防災事業（永久アンカー、KIT受圧板、落橋防止装置）
- 社会インフラ事業（大型斜張橋、パラレル構法）
- アンジェロセックによる国際設計市場参入
- エスイーバイオマステクノ（飼料化プラント設計、乾燥機販売）
- 売上100億円超グループ



Globality Engineering Maker

SEC 株式会社 エスイー